

日本語要約・臨床解説

Stage IV歯周炎の治療を、英国の診療へどう適用するか。

歯周炎の炎症制御だけでなく、失われた歯列機能の回復を扱う英国版ガイドラインの解説。

歯周治療 / 診療ガイドラインの適応に関する解説

患者を新規登録した試験ではない。EFPのStage IV歯周炎S3ガイドラインを英国向けに適応。

研究デザイン・対象・追跡期間と限界を踏まえて解釈。

01 研究の要点

目的

欧州歯周病学会（EFP）のStage IV歯周炎治療ガイドラインを、英国の診療環境に適応した内容を紹介する。

方法

元のEFP Stage IV歯周炎S3ガイドラインは2022年に公表された。英国歯周病学会は2022年10月に英国向けの適応作業を行い、その推奨文書は2025年に公表された。本2026年論文はS3ガイドラインの構造と、各症例型に対応する適応後の推奨を解説する。

結果

Stage IVと一部のStage IIIでは、歯周組織の炎症病変への対応に加え、歯列のリハビリテーションが必要になると述べる。抄録には個別推奨の強さや治療効果の数値は掲載されていない。

結論

包括的治療計画を考える資料となるが、具体的な推奨は本文と元のEFPガイドラインで確認する必要がある。

読み取れること

- 炎症制御と歯列機能の回復を一連の治療として捉える。
- 新しい患者試験ではなく、既存ガイドラインの英国向け適応である。

02 臨床で考える

Stage IV歯周炎の治療を、英国の診療へどう適用するか

1. 重度歯周炎の治療計画を見直す際に、炎症の制御と歯列機能の回復を、別々の課題として整理するための資料になる。
2. 英国向け推奨を日本の診療へ取り入れる前に、症例型ごとの原文推奨、推奨強度、診療体制の違いを確認する。

抄録だけでは個々の推奨文・推奨強度を確認できない。

本記事は原文抄録に基づく日本語要約・編集解説であり、個別患者への診断・治療指示ではない。

臨床で深く読む

原著の報告と編集上の解釈を区別した解説です。AI編集・歯科医師未監修。

2026年の新規治療試験ではなく、Stage IV治療の英国向け解説。

炎症の制御に加え、歯列機能の回復をどのように組み込むかを扱う。S3という方法論上の分類と、個別推奨を支える証拠の強さは別であり、日本での適用条件も確認して読む。

対象

Stage IV、および歯列のリハビリテーションを要する一部のStage III歯周炎を扱う。新たな患者登録はない。

介入・評価対象

EFP Stage IV歯周炎S3ガイドラインの英国向け適応と、その症例型別推奨の解説。

比較

治療法を直接比較する患者対照群はない。

評価項目

S3ガイドラインの構造、適応後の推奨の説明。臨床効果の主要・副次アウトカムを測った試験ではない。

追跡・評価時点

患者追跡なし。2026年の論文公表日と、基盤となるガイドラインの年代を区別する。

結果の大きさを、診療の視点で読む

対象とする治療範囲

原著の報告：Stage IVと一部のStage IIIでは、炎症病変だけでなく歯列のリハビリテーションが必要と述べる。

臨床での読み方：炎症制御で治療計画が完結するとは限らないという整理であり、特定の補綴法の優越性を数値で示した結果ではない。

適応と解説の年代

原著の報告：抄録は英国歯周病学会の適応作業を2022年10月と記載する。本論文は2026年9月11日電子公開。

臨床での読み方：新着論文であることと新しい介入の効果が実証されたことは異なる。2026年に適応作業を開始したと読み違えない。

目の前の患者に、どこまで重なるか

研究に近い条件：重度歯周炎の患者で、炎症治療と機能回復を含む包括的計画の論点を整理したい場面。

未確定の範囲：抄録から症例型ごとの具体的推奨、推奨強度、禁忌や日本の医療制度での実装方法は確定できない。

文書の性格

患者試験ではなくガイドラインの適応に関する解説である。患者数、効果量や比較群を補ってPICOらしい数値を作らない。

推奨の移植

英国の診療環境向けに適応している。症例型だけでなく診療体制や患者の希望を含め、元の文書にある条件を確認する必要がある。

本文の必要性

個別推奨の全文と強さは抄録に掲載されていない。本解説の概要だけで治療順序や装置選択を決めることはできない。

自院で検討するなら

- ・ 治療計画を読む際、炎症の評価と歯列機能の評価がどこで接続するかを整理する。
- ・ 症例型別の判断に使う場合は、英国版と元のEFP文書の該当推奨を直接照合する。

患者さんへの説明例

これは重い歯周炎で、炎症への治療に加えて歯並びや噛む機能の回復をどう考えるかというガイドラインの解説です。新しい治療の成功率を調べた試験ではありません。英国向けの文書なので、個別の治療には歯の状態と診療条件を合わせて検討する必要があります。

患者の希望と治療条件に合わせ、歯科医師が内容を検討するための研究説明例です。個別の治療結果を保証するものではありません。

同僚と考える問い

Stage IVの治療計画を検討するとき、炎症の評価と機能回復の目標を、診療チーム内でどの段階から共有しますか？

コメントする：<https://nakanoyuyadental.com/articles/uk-stage-iv-periodontitis-guideline#comments>

臨床解説の確認資料：原文抄録 (Abstract: methods, results and conclusions) <https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/42728299/>

研究の限界・解釈上の注意

- ・ 抄録だけでは個々の推奨文・推奨強度を確認できない。
- ・ 英国の医療環境への適応であり、日本での適用には制度や診療条件の検討が必要。
- ・ 原文抄録、本文序論の公表経緯、電子公開日を確認した要約。本文全体の日本語翻訳ではない。

03 原著・資料の範囲

Treating Stage IV periodontitis: the UK adolopment of the EFP Stage IV Periodontitis Treatment Guidelines.

Raindi DS, Kebschull M, Chapple I.

British dental journal | 原著公開日：2026-09-11

PMID : 42728299 | DOI : 10.1038/s41415-026-9887-0

PubMedの原文記録 : <https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/42728299/>

出版社の原著 : <https://doi.org/10.1038/s41415-026-9887-0>

資料確認・作成日 : 2026-09-15

収録範囲 : 既存の日本語要約と編集上の臨床解説。原著全文の翻訳ではありません。確認範囲と未確認事項は上記の限界欄に記載しています。

免責事項 : AI作成・歯科医師による監修未実施。医療者の学習用資料であり、個別患者への診断・治療指示ではありません。臨床判断に用いる前に原著と最新の診療指針を確認してください。